

日銀の視点

水戸での年越しを決め、大みそかの夜、念願の水戸八幡宮へ初詣に出かけた。1年の祈願をし、気分も晴れやかだ。ただ、水戸独自の雰囲気を感じることはなかった。それもそのはず、呼び寄せた家族と過ごし、参拝に向かったのは地域との接点は少ない。

地域とのつながりを実感したのは、県内企業が主催する石岡市で開催された「謎解き」に参加した時の事である。謎解きは、脳トレとウォーキングにもなる手軽なレジャーとして、若い世代や家族連れに

稲見 征史

日銀水戸事務所長

街を巡り、耳を傾ける

人気があった。
当日は全問制覇に6時間以上を要し、市街地の神社仏閣など、謎解き本の指示に沿って各所をくまなく回ることになった。謎解きが目的で訪れたわけだが、一日を過ごすた

とを振り返る機会となった。謎解きの役者の演出と思い込んでいたが、実は街中で気さくに話しかけてくれた地元の人たちとの会話から、地域の様子や歴史を知ることができたのも思わぬ発見だ。

が水戸藩の主要産業であったと文献で読んだことがあるが、タバコなどの作物の輪作の中で生育期間が短いソバの栽培が好まれ、地元の食生活に溶け込んでいたという話だ。

会いは現代につながる歴史や生活の変化を理解する上で有意義だった。謎解きの成績は振るわなかったが自己流の楽しみ方を発見するに至った。さて、最近の経済情勢を見ると、物価と賃金の緩やかな上昇が常態化しつつあり、環境も変化している。県内の経済動向を確認する上では、これまでのアプローチを基本としつつも、経済主体によって状況が異なってくる可能性があることを念頭に、広い声に耳を傾け、異なる視点から物事を見て、予断を持たず点検していくことが重要である。

め、おのずと街への愛着が増すほか、地域の飲食店などにも経済効果があり、小さな地域振興策とも言えよう。
筆者にとっては、常陸国府が置かれ、江戸時代の府中松平家に至る、幾重の繁栄が礎となり、今日の石岡があるこ

これに味をしめ、常陸太田市で開催中の謎解きにも挑戦した。常陸秋そば発祥の地もポイントに含まれるなど、一度は訪れたかった場所を巡ることができた。
発祥の地の碑の横には、葉タバコの碑があった。タバコ

これに関連し、水戸藩では県北の檜を用いた和紙の生産も多かったとの記載が想起され、竹も豊富な当地で、武士の内職として水府提灯の製造が盛んになった背景を遥まきながら理解した。
ソバも提灯も名産品として今も息づいている。謎解きを起点にした街巡りや街での出

意識する良い機会となった。